三七絵合

中村俊定文庫
文庫 18
359

まるの吉あるしに　けさろ事臺よのてとまて墨俣今とつる
ヵ毋ゑを付ゝこと有は　宝ヶ九年　翌年は八ヶ年の冬の夜行ゑゝし

俣之比

序

斯道文庫

俳諧ものハ墨絵ゝ仏画
を遂ぬいふとゝ
時いうちゝ年間を
後よ為ふ
ゝもゝ
常盤ゝ尊を
ゝ年墨絵合とゝふ

待由

直つ道きゝふれしをつ
ゝみ川云なゝくゝ題せるまてゝり
其折ふゝ変ゆるものゝ世物資氏よ
帝ゝ六玉川の郷一画をえたのゝ
六ゝ月冷かきゝ風吹ゝ掃ゝ
合ゝ河ゝふゝ月をあゝて生ゝ山吹の
ゝゝ布か花の色鮮を右ゝ
詠ゝ年の川風ゝ萩の葉ゝいとゝ

宮城県図書館

其一

山吹や釣返さるる花の中　如雷

さゝ波さゝと岸の砂の雪　蓼太

陽炎や袋の米の赤しゝ　〃

茶灌の下も茅の菅屋　雷

ひゝと村雨ふる蓬月哉　〃

蓬越の鴨の細手結ひし　太

宮城県図書館文庫

一ちとも掛乗たとへ　雷
嬢くふるゝ　掘屋ふまへば　太
身延さくゝ伊達の厚茶の通し　雷
言う蓋くゝ芽子乃ちるく　太
蚊を火手書くゝ某火手はくちる　雷
瓣乃上へ物出くゝ　太
京合の名を移はよみかつる　雷
伊吹いつゝ不機嘲れ山　太

法物手垣の手戸日乃見つゝとて　雷
月の雲井を余所に出代　太
新茶くゝ鏡手茶乃十二銅　雷
世を昔くゝと木の芽てんう　丶
大名をを多を座鋪り出まれ　太
文茶くゝ月と恬茶くゝ　雷
手多なく今戸手通ふ舟はあれと　太
かつり罪り　乃朝隈　雷

何の拂子もいくとせ大流古　太
木賀ハ木賀ともふなり　雷
何のかくれ蓑のうへ乃枝蛙　太
織留ほとり下京乃麦　雪
志ハかりあるも久しふるさうぞ　太
大往生り所ゝ　雷
月照の日ゝ雲かくる庵の虎　太
寒いも道理雀乃もの　雷

川越の惜蟹ハ柿を喰おうゝ　太
千夜茶の色ハ代　雷
のうきんの桑ハ遠ゝ釣り焼　太
昔化の　鰈も　雷
やそくと連歌調ふ花の陰　太
山ゝゝゝ紀の廛

執筆

其二

夕日こうろぎ里乃麦秋　蓼太

打ぢ〻双六盤乃肘うち〻　〃

何ゝハ舟ゝを研ぬるいさ　羽

脱つ吳つ時雨ゝ過の雲　〃

きぬ〻〻の中より城ハそびつる　太

赤羽

[illegible]
[illegible]五[illegible]　羽
[illegible]　太
[illegible]　羽
[illegible]　太
[illegible]　羽
[illegible]　太
[illegible]　羽
[illegible]　太

凡そ[illegible]世の風[illegible]
孫乃[illegible]菓[illegible]　羽
盛砂[illegible]く[illegible]の宿[illegible]　太
京[illegible]の地[illegible]山[illegible]　羽
垢離取の[illegible]　太
たゝ[illegible]　羽
是[illegible]　太
[illegible]白[illegible]　羽

南へ行如意の風の通ひ来
歩よりも速しと　新のいろ〳〵　羽
下駄をはつ〳〵鶯谷の立かた　太
そこと建る寺物　羽
高彫うり物地の小ひきゐん　太
一羽さそ〳〵　月の遠く　羽
振返るうしろ月新の腰ト縁　太
親よりも人とゝろ　乃女　〃

をゝ行通り坂の茶階子　羽
其云傳乃　遠も　合点　太
茨笠ト泊さゝめ結きめ　羽
高迄をゝ船ゝ　指ゝ行也　〃
宮のこゝ花よ小家の十ゝ　太
狂ふゝ書す　譜のうきもの

其三

踏乱やかさひろこひろきり布　左蘭

解るゝ程ふ河原なてしこ　蓼太

染物へ何をとゝ原衣　〃

手燭り軒ろれるしぶ也　蘭

分入迄ハ先椎ノ自樫の月　〃

都りのゝる秋ゝ中ノ　士

牡蠣養よつ〳〵く伊勢の春月　蘭

しけ夏新り袴かちくるを　太

ふる〻雪鈴振おうう　蘭

淋かえらぬ〻〻卯月哉　太

俎板の豆腐り旅の昨ちる　蘭

車よ命ゝもゝるの何某　太

渉情へ傘と木履り新しめ　蘭

庵も然ゝ言り乱神　太

茶の下よ待ゝほとれ鉢くす　蘭

ちる〻記り乱陀のちなり　太

花の日長石迄〻月の東山　蘭

時雨ゝ馬ゝ〻ゝ〻れ新の雨　〃

出代り起請乃うそ乃物ゝ色　太

引ちる神社垣ゝ〻ゝ〻ひ　蘭

風をよく駐流車乃下ちる迄　太

仲形のゝ〻ゝ如玄のゝ〻〻　蘭

蔡かうなどの見かけかはるかな

太

吟ふるとゝ藤とゝめる人は抜ぬ

蘭

萩うちり松屋もちくとゝ咲俄の奥

太

さしきこかれの雀もうるる

蘭

端をつたをを妻の言はうり

太

萩大名の思ふきまゝ

蘭

青ゝゝと月を家ゝ星北中

太

小春秋も淋しくゝ見川書

蘭

聲うちうちに向きるをきと

太

さの盛方をもはゆなり

蘭

灯ゝは蟲のおくれの吹せし

丶

多姿をくるる人も語く

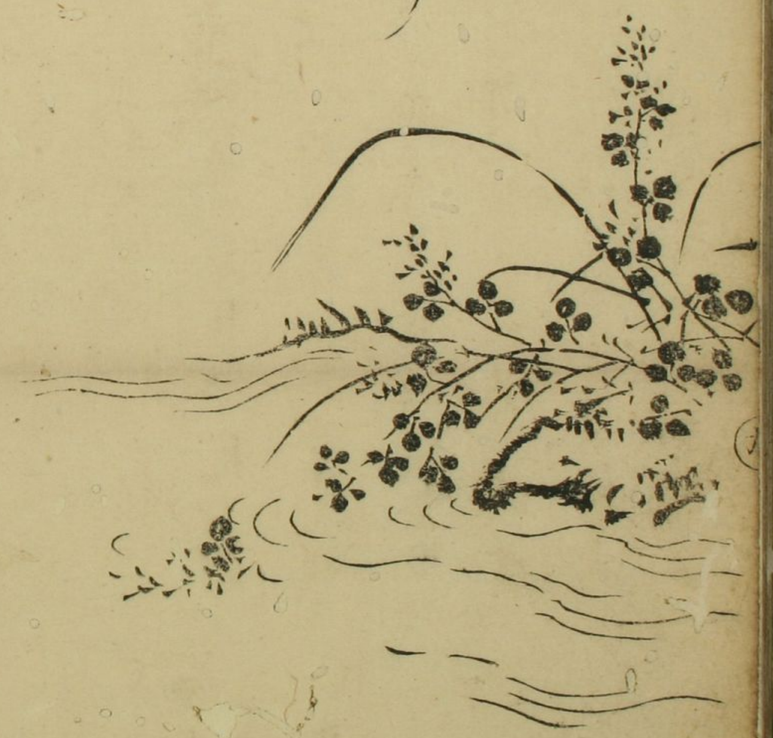
太

君ゝ代の神を感さぬ花ちるを

丶

絃書ひとゝ引始らし

執筆



其四

波誠さぬ葉も玉数や萩乃露　南羅

ひしゝゝう磬の雲ゝ月代　蓼太

むやゝゝ敗布ゝ相撲見合ゝ　〃

草鞋も解ゝさゝの基望　羅

盆踊ゝゝいつもあうゝの袋ゝ　〃

ゝゝ呉ゝゝ祝と実小春の星　太

[illegible]し母のうちとも　羅
行　奏あ迚と　飯　を　ふ　妙　太
琴もまゝ左の利ぬ事よりり　羅
膳所と大津の中を通く　太
雨と丁梅田の活る去り月　羅
法花坊主の きな　利　太
賀賀の面ゝ喜ゝ吹矢筒　羅
いさと妻の膳をとりまく　太

叶の名も絵ぬ冨士の高い面　羅
取一ふうゝる士り抱行　太
豆級の伊達き〳〵花のむゝ　羅
妻の夕人の　窓もなくさみ　〃
芋の葉　叶ぬ　ぬ　念な　太
ほゝ〳〵路の　膳り　尺八　羅
夏畑のゝ　妻　伊勢山　太
辛子ゝきん　わたもひ　羅

後撰にふる白合なれ投げ出
さして家誠の車のうしろ　羅
雨情を家苔うるうるの銀世言　太
晦日よりの女星のうるうる　羅
月毎な業名の者り這ひのり　太
者のちううハうふううう　羅
もりの精りふるる縄　太
林原の遊の後りうかりぬ　羅

家ひひうう家ひ高ひうるうる　太
清ひ月ぬ怖ひ来うるる　羅
袋戸ひ彫ふゆふかの羽箒
日もうらうと言のとの新　〃
出る帆あしひ入帆ひ花の咲言り　〃
鯛もうくひもさうくり言り

其五

歌よむ人のかたらひ川ちどり　千東

岫乃まくら　桔梗　月　蕎麦

其むこの一ふしを歌掛搭　〃

啼かくれて書物をとある　東

木〳〵の葉よ峯越雨のこゑれ口　〃

昼　鐘　一四鳴ちまく　太

掛テうり者りのものの縁セ起シ　東
罪う偏をく極のかくく　大
うちあさくかを幸波の志賀の里　東
志くくハいさと瓦師別ほく　太
狩云のやうか見形の意ちうを　東
洛東の釘の棹掛しきく　太
裏くく千十方うれの朝みうり　東
六ハいとかをちうミ宗線　太

分京う形痛まきほく志の上　東
将碁とさうり分乃牧場　太
月代のそれとも見に鄙うう　ヨ
物麦奏もまく條さなり　ム
脉くふる是も乃に西京殺　ハ
由良一麦の かはよ物軍　東
法輪くえ初く浅瀬の里乃　六
夕新もちと咲ぬてハる　東

湯のうりの禅よ　禅をもめるこゝろ　太
喧嘩をはよもゝ　仕ものく　東
つゝまるとらでさ芝居よ火を焼　大
はゝ母ものゝ　神意霊ふ　東
参詣ゝ寄ゝ　ものゝたまりの　東
思月のゝ　行物ともの　東

ふるまてもゝ秋ゝ　一日ゝ　世の中よ　参ゝ　彩坊とふゝり　摘菜袋ゝ春　執筆

其六

丁足を通くの明やすう美　夜光

言人殊く　桔乃志ゝ雲　美太

吸物ゝ柿乃志ゝ雲ハ美ゝ

初秋美の美　ゝ　光

新ゝこの世朝日出の月の雪

さふゝ殊を通くの美　太

取てる角力も四十八手を摩　光

時雨　うはの小白川ちる　太

ほんの里と老とを忘るゝ小さうつゝ　光

老ゝ　かゝ　歌　を　乃　乃　紫　太

ま　さ　の　ち　ち　の　ち　ち　ち　の　梅　ち　ち　ち　六

荒　ち　も　次　ア　の　古　ち　い　ち　く　太

金屏　ゝ　墨　繪　の　自　の　お　六　光

蝿　ゝ　図　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　太

施餓鬼　いや　の　と　珠　数　を　ち　ち　ち　光

よ　ゝ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　雨　ち　鉢　の　時　太

汐　舟　の　ち　ち　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　光

磬　香　も　流　ち　ち　ち　ち　ち　の　ち　ち　ち

ち　薬　ち　ち　い　ち　ち　ち　と　に　偶　師　太

ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　光

日　雲　ち　つ　ち　に　磬　望　の　絲　ひ　ち　ち　太

恋　ち　ち　歌　の　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　光

咲ちるを惜む跡をかくるゝ

海嘉　嘉ふく鞠も大鞍も　光

高殿中の牛　初雪の夜の　太

鮫をちうつり　蛛うりの月　光

香のにふきや深を下ゝ　太

たゝ〳〵さい額　法郭成就　光

船底の行破橋をうちう　太

林　〳〵時雨　菜田換郭　光

借かの風呂敷解くゝ引ぬ

誠り京を鐘　けり　太

ゝ日の京下ゝ入かゝ

ゝ茂の　十里　安ノ　光

かるゝ位も花のら　太

苞の玉ひも　執筆